

「自分の未来を切り拓く～発達する幼児・発達する自分～」～幼児が育つ良い環境とは～

静岡大学教育学部附属浜松中学校

実施学年：中学3年
 生徒数：121人（3学級）
 実施教科：技術・家庭科（家庭分野）
 実施時間数：7時間

体験やかかわりとつながりを大切に、たくさんの方々に支えられた学びが展開できました。



パパママ体験（NPOふわっと・保護者授業サポーター・浜松市内の親子）



子どもの育ちを支える浜松市（浜松市次世代育成課職員）



浜松市への新たな提言（浜松市次世代育成課・ユニバーサルデザイン課職員）



幼児の視線で地域を見つめる（チャイルドビジョン）



男女共同参画ファシリテーター

学習のねらい

「幼児が育つよい環境」に、自分が育てられている地域の環境を幼児の視線で見つめることで安全面からアプローチし、改善策を考え、それを地域に提言することで、よりよい住環境や社会を作る担い手としての意識を育てる。

学習活動

- 1 祖父母や父母へのインタビューから、子どもが育つよい環境について自分なりの価値づけをする。
- 2 子どもや子育てをとりまく社会の現状を日本・韓国・デンマークの比較を通してつかみ、子育ては社会のあり方に大きくかかわっており、小さな家族の中に閉じていないことに気づく。
- 3 浜松市子ども健全育成課の皆さんから、「浜松市子ども育成条例」の制定についてお話を伺う中で、自分も支えられている子どもであると同時に、支えることのできる市民であることを自覚する。
- 4 「幼児の視線で地域を見つめ、幼児が安全に育つことのできる環境を考えよう」をテーマに、チャイルドビジョンを手にしてフィールドワークを行い、現状と問題点を把握し、幼児を支えることのできる市民として浜松市への新たな提案を追究用紙にまとめる。
- 5 それぞれの提案を交流する。
- 6 浜松市への提言を行う。

準備品

- ・チャイルドビジョン（各自）・デジカメ（利用できるデジカメがない者は、家庭科備品を貸し出す）
- ・スキャナー（追究内容を取り込む）・マグネットスクリーン
- ・資料【浜松市次世代育成行動計画、各種パンフレット（次世代育成、男女共同参画、ユニバーサルデザイン等）、ビデオ（日本の少子化）、子どもの権利条約など】

実施場所

家庭科室 教室 PC室 図書室

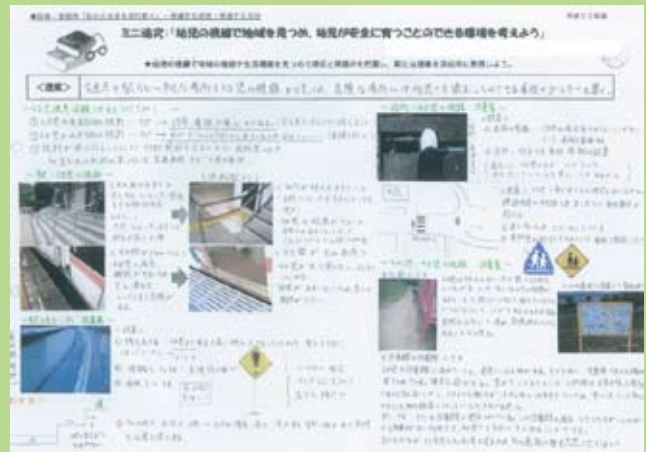
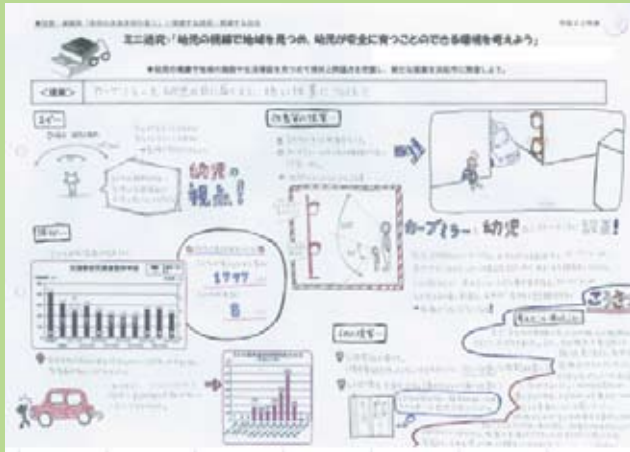
学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>家庭科室</p> <p>1 時間</p>	<p>幼児が育つよい環境とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 夏休みの課題であった祖父母・父母へのインタビュー内容について交流する。 2 「子ども」という存在が社会の在り様によって、異なることに気づく。 3 幼児が育つよい環境についての価値づけをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューによって、今まで知らなかった父母や自分の育ちを知るとともに、「子ども」や「子育て」が社会の在り様によって変わること気づく。 ・自分なりに幼児が育つよい環境に大切なものを3つ挙げることができた。
<p>家庭科室</p> <p>2 時間</p>	<p>小さな家族による子育てと子育てを支える社会システム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本・韓国・デンマークの子育て問題を扱った番組を視聴する。 2 ワークライフバランスについて知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・子育ては、小さな家族の中に閉じていないことに気づく。 ・ワークライフバランスから自分の壮年期の生き方を漠然と考え始める。
<p>パソコン室 & 図書室</p> <p>3 時間</p>	<p>小さな家族による子育てととりまくものつながり1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 パパママ体験で、6か月～2才6か月の乳幼児とその保護者とふれあう。 2 乳幼児と直接ふれあうことにより、「いのち」を体で感じる。 3 乳幼児の保護者から育児・育児支援・仕事・家事などの話を聞くことにより、子育ての楽しさ・大変さ・大切さなどを学ぶ。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」のぬくもりと子どもにそそがれる思いを実感しながら、ふれあったことに感動する。 ・自分もこのような時期があり、このように守られてきたことに気づく。 ・これからの社会に必要な支援策などを考えるきっかけになった
<p>教室</p> <p>4 時間</p>	<p>小さな家族による子育てととりまくものつながり2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 助産師さんから「いのち」の話を聞く。 2 男女共同参画のファシリテーターから、「人権」の話を聞く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」の誕生を、科学的にとらえるとともに、その奇跡に改めて「いのち」について考える。 ・男女共同参画のファシリテーターの話やディベートから、知らず知らずに内面化しているジェンダー意識に気づく。

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室</p> <p>5 時間</p>	<p>小さな家族による子育てととりまくものつながり3</p> <p>1 浜松市次世代育成課の職員を招き、子どもの育ちを支える浜松市の取り組みを知る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市次世代育成課の職員の話から、自分が育った浜松市の子育て環境についてつかむ。 ・周りから育ちを支えてもらっていると同時に幼児の育ちを支える立場でもある自分を自覚する。
<p>フィールドワーク</p> <p>追究</p>	<p>幼児の視線で地域を見つめ、幼児が安全に育つことのできる環境を考えよう</p> <p>1 チャイルドビジョンを手に、自分が生活する町を見つめ、現状と問題点を把握する。</p> <p>2 調査結果をもとに、幼児を支える市民として浜松市への新たな提案をまとめる。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が普段生活している町も、チャイルドビジョンを通して見ると、全く違った風景に見えることに驚いた。 ・幼児の視線でみると、多くの危険がある殊に気づいた。 ・1学期に学んだ幼児の心身の発達の仕方が、チャイルドビジョンを通じた追究という体験をくぐることで、納得へと変わった。
<p>教室</p> <p>6・7 時間</p>	<p><交流・浜松市への提言> 幼児の視線で地域を見つめ、幼児が安全に育つことのできる環境を考えよう</p> <p>1 各自の提言を交流する。</p> <p>2 他者との交流の中で学んだことを発表し合う。</p> <p>3 具体的で、実現可能性の高い提言を選ぶ。</p> <p>4 再び、浜松市次世代育成課と男女共同参画推進・ユニバーサルデザイン課の職員を招き「都市環境整備」と「ユニバーサルデザイン」の категорияに分けて、提言を行う。</p>	  	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が、自分の生活エリアにおいて把握した現状と問題点についてまとめたものをもとに考えた新たな提言を交流し合うことで、幼児が安全に育つ環境をさまざまな視点から考えることに気づいた。 ・ハード面での整備は、どんな小さなことでも市民が行政に伝えていくことが大切であること、また行政からの財政面でのバックアップが必要なることに気づいた。 ・ソフト面では、他者の立場にたって見ること・考えることの大切さに気づいた。 ・浜松市職員が同席しての提言は、自分たちの学びが広がる実感に伴うものであった。

生徒の作品



発達する幼児・発達する自分



先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- 中3の家庭科で住教育と保育をどのように統合して題材を構成すればよいのか。
- さまざまなものやことや価値観と出会わせるための体験活動をどのように取り込んで展開すればよいのか。
- 「幼児が育つよい環境」を安全面に絞り込み、自分が育てられている地域の現状をくぐらせて自分たちが考えたことを地域に返すことで、よりよい住環境や社会を作る担い手としての意識を育てることにつなげようとしたこと。

児童・生徒の反応

- 学び支えてくれた多くの人との出会いに感謝していた。
- 住環境や社会をつくるために、気づき、考え、行動する、小さなアクションでも起こすことが他を動かすことにつながるのだといった感覚・意識の獲得ができた。

教師の変化 (担当、担当外を含めて)

- 「教師はコーディネーターでもある」ことを、改めて実感した。多くの地域の方々のご理解とご協力なくしては成り立たない授業であった。
- 他の教科担任や保護者にも授業サポーターをお願いしたことによって、住教育や保育の学習に対する見方が変化したこと。(大切な学びである、生きた学びである。)

その他

本校では、どの題材も「ガイダンス・つかむ学習・追究する学習・つなげる学習」という流れの構成になっています。追究する学習では、個人テーマを設定して与えられた共通テーマに迫り、つなげる学習の交流で学びを広げたり深めたりしています。今回の追究は、「幼児が育つよい環境」にチャイルドビジョンを用いた体験を通して安全面から迫ろうとするものでした。本追究の交流には、「視覚的に危険や提言が共有できること」が鍵となると考えました。貴財団の助成によって、貸し出し用デジカメ、スキャナー、マグネット式プロジェクタースクリーンを購入させていただいたことで、大いに共有化に役立ちました。ありがとうございました。